

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		観光施設改修事業		担当課	港湾商工課					(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
				担当係	観光特産品係					活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	1	7	1	3	備考	ア	修繕箇所数	箇所	20	8	5	9		
(個別目標)	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	需用費、工事請負費					イ	修繕金額	千円	6,635	7,372	22,268					
(施策)	1	観光資源の整備、活用	対象	市民、観光客					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
(基本目標)	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	事業期間	年度～年度 (年間)					ア	観光入込客数	人	800,000	600,000	900,000	900,000	900,000		
(施策)	6	環境にやさしいまちの推進プロジェクト									イ								
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価								
年間 トータル コスト	事業費	千円							有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	・ 市民が親しめる施設また地域活性化の拠点として活用する施設としてニーズは高い。 ・ 施設を維持・運営することは、観光客誘致にも繋がり、事業の廃止は、大きな経済損失にもなる。								
	財源内訳	千円																	
	国県支出金	千円																	
	その他特定財源	千円	10,423	10,326															
	一般財源	千円	6,300		33,309	39,632	33,309	33,309											
	事業費計 (A)	千円	16,723	10,326	33,309	39,632	33,309	33,309											
人件費	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050		効率性 評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	・ 必要に迫られた箇所を修繕している状態のため、事業費削減は難しい。 ・ 市民が親しめる施設また地域活性化の拠点として市民や観光客のニーズは高いことから、財政負担は必要である。 ・ いずれの施設とも密に連携・情報共有している。									
所要人員 (年間)	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050													
人件費概算 (B)	千円	280	280	280	280	280	0												
(A) + (B)	千円	17,003	10,606	33,589	39,912	33,589	33,309	達成度 評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢・環境の変化 ・ 事業期間	・ 安全、安心して利用できる施設としての整備・運営 ・ コロナ禍により利用客は減少していたが、施設の維持・運営には、整備・修繕を行っていく必要がある。									
(2) 事業概要																			
事業目的	観光施設の整備について、経年劣化等により業務に供することができなくなった箇所を改修することにより、サービスの維持及び向上を図る。							改革 改善案	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了										
事業内容	ダグリ岬遊園地、海水浴場及び蓬の郷施設の整備・修繕																		
開始経緯	観光客誘致及び市民が親しむ施設として欠かせない観光施設について、現在指定管理として管理・運営業務を委託しているが、施設運営上必要な部分については市が修繕等を行う必要があるため。							・ 大規模修繕にならないよう、指定管理者と情報を共有しながら日々の定期点検を実施し、早期発見による小規模修繕を行っていく。											
実施状況	蓬の郷キュービクル取替修繕、遊園地レストハウス雨漏り修繕、レンタサイクルブレーキレバー取替修繕 J R志布志駅トイレ修繕等、修繕14件 工事請負3件を実施した。																		
成果	修繕等を実施したことで、施設本体の維持が図られたとともに、利用者の利便性及びサービス向上に繋がった。																		
課題	いずれの施設も老朽化が進んでおり、毎年修繕箇所が出てくる。修繕計画はあるものの突発的な緊急修繕が必要となるケースも多い。																		

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		貸切バス旅行誘致事業		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
				担当係	観光特産品係				活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
まちづくりア (基本目標)	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	誘致訪問件数	5	5	5	5	5
(個別目標)	画面体系	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	負担金、補助及び交付金				イ							
(施策)	体系	2	PR・誘客活動の推進	対象	市民、観光客、旅行会社				成果指標 (成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(基本目標)	総合戦略			事業期間	令和2年度～ 年度 (年間)				ア	貸切バス台数	100	25	52	70	70	
(施策)										イ	宿泊加算人数	300	750	1,080	1,200	1,200
												712	1,813	543		
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価					
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円		6,246				有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	助成金を交付することで、本市を旅行先に選定していただいている。また、宿泊業者をはじめ、業者への経済波及効果は高いものであるため、廃止した際の本市への影響は大きい。					
		その他特定財源	千円			2,700										
		一般財源	千円	2,844		3,500		2,700								2,700
		事業費計 (A)	千円	2,844	6,246	3,500	2,700	2,700								2,700
		所要人員 (年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025								
		人件費概算 (B)	千円	140	140	140	140	140								0
		(A) + (B)	千円	2,984	6,386	3,640	2,840	2,840	2,700							
(2) 事業概要																
事業目的	コロナ禍によるマイクロツーリズム需要の高まりや県内教育旅行の誘致に資するため、貸切バスによる団体旅行を誘致してきたが、アフターコロナを見据え、補助申請者の基準を緩和し、広く教育旅行の誘致に資する事業とする。															
事業内容	志布志市を行程に含む貸切バスを活用した旅行に対し、助成金を交付する。 教育旅行 30,000円/バス1台当たり 企画旅行等 20,000円/バス1台当たり 宿泊加算 2,000円/1人泊当たり															
開始経緯	コロナ禍により移動や人数等に制限が課せられる中、マイクロツーリズムでの旅行や県内・近隣県学校の教育旅行等を誘致するため。															
実施状況	申請件数 28件 補助金交付バス台数 44台 宿泊加算対象人数 543人															
成果	移動制限により、県内の学校をはじめとする教育旅行の大幅増に繋がり、市内飲食店、宿泊施設、観光施設への経済波及効果が見られた。このことにより、特に薩摩半島における本市の認知度向上に繋がり、その後、再度、個人旅行として本市を訪れていただいている。															
課題	新型コロナウイルス第8派の影響も心配されるが、回復の兆しを見せ経済活動も活発化していることから、遠方からの観光客が増えつつある。当該助成事業を利用できる範囲(基準)を広げ旅行会社への営業活動を行う必要がある。併せて、隣県の学校や旅行会社等へも積極的アプローチを実施していく必要がある。															
										改革改善案		<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了				
												・遠方からの入込客増加のを図るため、基準を緩和し旅行会社や学校等を訪問し、事業紹介の機会を増やす必要がある。 ・経済波及効果の拡大を目指し、旅行行程における市内滞在時間が増えるよう体験コンテンツ等充実を図る。				

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		蓬の郷（ふれあい交流センター以外の施設）指定管理委託事業		担当課		港湾商工課		(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
				担当係	観光特産品係		活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
				予算科目	会計	款	項	目	備考	実績		実績		実績			
まちづくりプラン（基本目標）	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	1	7	1	3		ア	修繕件数	件	5	3	3	2	3
(個別目標)	計画体系	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	委託料（指定管理料）、修繕料					イ	イベント実施回数	回	0	0	2	2	2
(施策)	体系	1	観光資源の整備、活用	対象	施設利用者（市民・観光客）					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	総合戦略			事業期間	平成25年度～		年度（ 年間）			ア	施設利用人数	人	6,600	6,600	6,600	6,600	6,600
(施策)	戦略									イ			6,355	7,506	8,362		
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価						
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)									
年間トータルコスト	事業費	国県支出金	千円						有効性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性 							
		その他特定財源	千円			6,277	6,277										
		一般財源	千円	6,277	6,277			6,277									
		事業費計 (A)	千円	6,277	6,277	6,277	6,277	6,277									0
		所要人員 (年間)	人	0.025	0.025	0.025	0.025	0.025									0
		人件費概算 (B)	千円	140	140	140	140	140									0
		(A) + (B)	千円	6,417	6,417	6,417	6,417	6,417	0								
(2) 事業概要																	
事業目的	現在ある観光資源を生かし、市内外からの観光客誘致のため、蓬の郷ふれあい交流センター以外の施設となる親水公園やその周辺を委託し、魅力ある施設となるよう整備する。																
事業内容	親水公園と周辺施設の整備、景観の維持を含めた管理運営業務を主に、「あじさい祭り」や「オータムフェスタ」等のイベントも開催し、本市の観光施設として賑わいを創出する。																
開始経緯	平成25年度から親水公園周辺施設とふれあい交流センターの管理者を分け、より専門性の高い指定管理者に管理運営を委託することで、効果的かつ効率的な施設運営が図られ、施設の設置目的である地域活性化の観点からも市民が自然と触れ合える施設とする必要があったため。																
実施状況	親水公園及び周辺施設を特定非営利活動法人志布志みどりのプロジェクトを指定管理者として管理委託し、日々の清掃管理を行い地域活性化を図っている。また、指定管理者の自主事業として花壇の整備や「オータムフェスタ」を行い、賑わい創出と景観の向上に尽力している。																
成果	親水公園及び周辺施設は専門業者の特性を生かした景観整備を実施し、環境学習の場や癒しの場として市内の利用者に広く活用されている。また、観光特産品協会と連携しイベント等を実施したことにより施設の賑わい創出につながり、隣接する蓬の郷ふれあいセンターへの集客にも寄与した。																
課題	親水公園及び周辺施設は、福祉施設などの利用者も増え、バスなどの駐車場整備や車いすに対応した散策路が一部整備されたが、バリアフリーのトイレ整備、車いすに対応した散策路の延長整備を行う必要がある。																
										改革改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や福祉関係者などユニバーサルデザインに配慮した施設整備を図る。 ・蓬の郷周辺の関係者と密に連携し、より多くの集客を図る。 						
										達成度評価	数値目標	目指す状況	実現性	情勢・環境の変化	事業期間		
										効率性評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了						

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		ダグリ公園指定管理委託事業					担当課		(3) 指標の推移																		
							港湾商工課		観光特産品係					活動指標 (実施状況)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度						
							担当係	観光特産品係		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)											
							予算科目	会計	款	項	目	備考	実績		実績		実績										
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					予算科目	1	7	1	3		ア	利用料金収入額	千円	27,570 23,594	27,570 39,323	27,570 54,913	27,570	27,570						
(個別目標)	4	地域資源を生かした観光のまち					主な費目	委託料 (指定管理料)、修繕料					イ														
(施策)	1	観光資源の整備、活用					対象	施設利用者 (市民・観光客)					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)						
(基本目標)	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる											ア	遊園地利用者数	人	31,000 19,105	31,000 42,617	31,000 44,442	31,000	31,000							
(施策)	5	観光パワーアッププロジェクト					事業期間	平成28年度～ 年度 (年間)					イ														
(1) 総事業費の推移		単位	2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度		(4) 評価		所管課による評価										
			(実績・決算)		(実績・決算)		(実績・決算)		(計画・予算)		(計画・予算)		(計画・予算)														
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円												有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・ダグリ公園周辺は市の観光振興計画でも重点コンテンツとして位置付けており、本市の観光拠点となっている。特に海水浴場及び遊園地は、総合的な観光レクリエーション施設として、今後も集中的に整備活用し、観光振興及び地域活性化を図る。 ・事業を廃止することで、本市の観光の中核施設が無くなり、観光客の激減が予測される。										
		その他特定財源	千円			14,840	14,840																				
		一般財源	千円	14,840	14,840			14,840	14,840																		
		事業費計 (A)	千円	14,840	14,840	14,840	14,840	14,840	14,840																		
		所要人員 (年間)	人	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500	0.500																		
		人件費概算 (B)	千円	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800	2,800																	
		(A) + (B)	千円	17,640	17,640	17,640	17,640	17,640	17,640	17,640	17,640	17,640															
(2) 事業概要																											
事業目的	ダグリ公園のうち遊園地及び海水浴場周辺を管理・運営することで、市民や観光客のレクリエーションの場として快適に利用することができ、本市観光振興及び地域活性化が図られる。																										
事業内容	ダグリ公園のうち遊園地及び海水浴場周辺の管理・運営を指定管理者に委託する。																										
開始経緯	国定公園の範囲に属するダグリ岬公園のうち遊園地及び海水浴場周辺は、県内唯一の遊園地として、市の観光振興計画でも重点コンテンツとして、重要な観光拠点となっている。																										
実施状況	(株) 谷口製作所が指定管理者として令和3年度から5年間の管理期間で運営を行っている。また、令和2年度において遊具料金の使用料条例改正を行ったが、コロナ禍もあり、料金改定には至っていない。																										
成果	令和4年度は、コロナ禍におけるマイクロツーリズムのニーズの高まりにより、遊園地の利用客や海水浴場の設置により売上が向上した。また、県内からの教育旅行の受入れを積極的に行い、前年比、計画対比においても黒字となっている。																										
課題	経済活動の回復により遠方への観光のニーズが高まる傾向にあるため、マイクロツーリズムのニーズにも限りが見え始めることから、観光客のニーズの変化に対応した集客対策を講じる必要がある。また、老朽化する施設の年次的な改修を実施しているが、指定管理者所有の遊具についても、今後の料金改定による増収を原資等を活用し魅力向上のための改修及び新規導入を行っていく必要がある。																										
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:10%;">拡充</td> <td style="width:10%; text-align: center;">○</td> <td style="width:10%;">現状維持</td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:10%;">改善</td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:10%;">効率化</td> <td style="width:10%;"></td> <td style="width:10%;">廃止終了</td> </tr> </table>																			拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
	拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了																		
遊園地で現在実施しているような周辺の観光関連施設と連携しイベントを開催することで通年での誘客が可能となることから、遊園地との相乗効果が期待できる。遊園地の利用客が利用しやすい施設整備を継続的に行う必要がある。																											

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		観光客誘致推進事業 (観光客誘致推進事業、魅力ある観光地づくり事業)		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度				
				担当係	観光特産品係				活動指標 (実施状況)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
まちづくりア・ラ (基本目標)	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計 1	款 7	項 1	目 3	備考	ア	営業訪問件数	社	10 3	10 0	10 0	10 /	10 /	/		
(個別目標)	画面体系	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	委託料、負担金、補助及び交付金						イ	観光メニュー作成数	件	3 1	3 0	3 4	3 /	3 /	/	
(施策)	体系	2	PR・誘客活動の推進	対象	市民・観光客							成果指標 (成果・効果)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
(基本目標)	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	事業期間	年度～ 年度 (年間)						ア	観光入込客数	数	800,000 313,342	600,000 453,437	900,000 490,048	900,000 /	900,000 /	/	
(施策)	戦略	5	観光パワーアッププロジェクト								イ	宿泊客数	数	90,000 66,092	80,000 89,083	80,000 97,459	85,000 /	90,000 /	/	
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価									
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	観光客が増えることで市内の経済活性化に繋がることから、事業の重要度は高い。一方で、観光におけるニーズの変化は非常に速いため、即時対応できる状況を維持する必要がある。									
	財源内訳	その他特定財源	千円		3,714	2,765														
	人件費	一般財源	千円	12,428	3,055		2,765													
	事業費計 (A)	千円	12,428	3,055	3,714	2,765	2,765	0												
	所要人員 (年間)	人	0.050	0.100	0.100	0.100	0.100													
人件費概算 (B)	千円	280	560	560	560	560	0	効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	事業については、一部民間のノウハウを入れることで効率的に運用している。個々の事業ごとに毎年度検討し、スクラップアンドビルドは必要である。観光特産品協会は、本市の観光振興のための核となる団体のため、財政負担は必要であると考えます。										
(A) + (B)	千円	12,708	3,615	4,274	3,325	3,325	0													
(2) 事業概要										達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	各事業、コロナ禍の中においても遅滞なく推進されており、市内滞在時間の増加に直結する取組となっている。アフターコロナも見据え、継続して体験型観光を提供できるよう各事業者との繋がりを維持する必要がある。								
事業目的	市内の魅力ある観光素材を磨き上げ、体験型観光の開発や新たな旅行商品の造成に繋げ、効果的な情報発信を行うことで、誘客促進を図る。また、周遊型イベントやぼっぼマルシェ等の開催により市内のにぎわいを創出する。																			
事業内容	本市への観光客誘客のため、ニーズの高まりがある体験型観光メニューの開発を行い、情報発信を強化し観光客に対し適切な情報提供に努める。また、市内周遊型イベントを開催し、観光スポットを巡ってもらう事業等を展開している。運営については、一般社団法人志布志市観光特産品協会に委託し、一部事業に関しては補助金を交付し実施している。								改革 改善案	<table border="1"> <tr> <td>拡充</td> <td>現状維持</td> <td>○ 改善</td> <td>効率化</td> <td>廃止終了</td> </tr> </table>						拡充	現状維持	○ 改善	効率化	廃止終了
拡充	現状維持	○ 改善	効率化	廃止終了																
開始経緯	観光客のニーズの一つとして「体験型観光」による誘致は欠かせず、受入体制の向上が求められていた。また、他地域に比べイベント等の情報発信が弱いことから、効果的に周知を図る必要があったため。																			
実施状況	1 体験型コンテンツを含む旅行商品の造成 (南国交通との商品造成委託：4メニュー 12月、2月、3月実施) 2 観光情報発信事業 (活字媒体への広告掲出を中心とした情報発信 1件) 3 スタンプラリーによる市内周遊事業 (志布志麓地区スタンプラリー実施 10月) 4 ぼっぼマルシェ開催によるにぎわい創出 (令和4年度4回実施)								・造成した旅行商品を稼ぐ観光に繋げるため、PRを強化。 ・新たに完成した多目的イベント広場を活用し、にぎわい創出の機会を増やす。 ・ダグリ岬周辺の観光施設を活用したイベントを開催し観光誘客を図る。											
成果	市内各事業者を訪問し、体験型観光コンテンツが造成できつつあることは大きな前進となった。スタンプラリーによる周遊事業も参加者が昨年度より大幅に増え、志布志市郷土かるたが観光コンテンツとなり得ることが実証された。また、ぼっぼマルシェについては、回数を重ねるごとに集客も増え、JR志布志駅前の賑わい創出に貢献している。																			
課題	コロナ禍において観光の形が変化していく中で、時流にあった適切な誘客活動が必要になる。商品造成したものの、販売実績が思わしくないため、今後は商品の磨き上げのため、モニターツアー等の実施が必要。また、アフターコロナを踏まえ、ダグリ岬海水浴場を活用したイベントも企画し観光誘客に努めたい。																			

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		総合観光案内事業		担当課	港湾商工課					(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
				担当係	観光特産品係					活動指標 (実施状況)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	1	7	1	3	備考	ア	観光ガイド人数	人	14 11	14 13	14 13	14	14
(個別目標)	4	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	委託料					イ	総合観光案内所訪問者数	人	14,000 9,104	14,000 10,438	14,000 6,315	14,000	14,000	
(施策)	3	3	「おもてなし」のまちづくり	対象	市民・観光客					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
(基本目標)	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	事業期間	平成20年度～ 年度 (年間)					ア	宿泊者数	人	90,000 66,092	80,000 89,083	80,000 97,459	85,000	90,000	
(施策)	5	5	観光パワーアッププロジェクト		イ	観光入込客数	人	800,000 313,342	600,000 453,437	900,000 490,048	900,000	900,000						
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価							
年間トータルコスト	財源内訳	千円	(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	有効性評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	観光客の案内、おもてなしをする施設は他になく業務の必要性は高い。 また、本市を訪れる観光客全てに対応するため公平性も高いと考える。							
	国県支出金	千円			4,181	4,530												
	その他特定財源	千円																
	一般財源	千円	8,695	3,997			4,530											
	事業費計 (A)	千円	8,695	3,997	4,181	4,530	4,530	0										
	所要人員 (年間)	人	0.200	0.100	0.100	0.100	0.100	0										
人件費概算 (B)	千円	1,120	560	560	560	560	0											
(A) + (B)	千円	9,815	4,557	4,741	5,090	5,090	0	効率性評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	観光案内所については本市のイメージを直接左右することにも繋がるので、適切な研修等が必要であり、人件費等が主な負担のため、削減余地は少ない。								
(2) 事業概要																		
事業目的	本市を訪れるお客様に「再び訪れたいまち」と印象付けられるよう、市総合観光案内所の運営、観光ガイドの育成等を行う。																	
事業内容	・ 観光客の案内や、情報収集、手荷物預かり、レンタサイクル対応など観光客の心に寄り添う窓口対応。 ・ 観光統計情報収集業務 ・ 観光ガイド育成によるツアーガイド																	
開始経緯	訪れた観光客へ懇切丁寧な観光案内と「おもてなし」をすることで、本市の魅力を伝え、再び訪れていただくとともに、おもてなしの玄関口となるJR志布志駅周辺において、ぽっぽマルシェを開催することで、周辺の賑わいを創出する必要があるため。※事業開始時にはぽっぽマルシェは本事業で開催。							達成度評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢・環境の変化 ・ 事業期間	観光客に適切な観光情報の提供を行っている。 ・ コロナ終息後に向けた、様々な取組を今のうちに協議・検討し、情勢にマッチした情報発信、イベント開催が求められる。								
実施状況	総合観光案内所の運営を志布志市観光特産品協会に委託し、まちかど案内所運営協力依頼・観光ガイド育成事業・レンタサイクル・観光統計情報収集を行っている。(総合観光案内所訪問者数：10,521人、レンタサイクル貸出件数：304件、志布志城郭符販売実績：1,133枚等)																	
成果	・ 観光案内所運営において、観光客に適切な観光情報やおもてなしを提供し、観光客のリピー率向上に寄与。 ・ 日本遺産産地区を案内する観光ガイドの育成強化によるツアーガイドの実施。							改革改善案	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了		全国旅行支援等により遠方からの観光客が増えつつある中、再訪していただくための観光PR (リピーター獲得) 等、引き続きおもてなし向上に努める必要がある。 ・ 観光ガイドの人材育成を図るため、ガイド組織の募集について市内へ周知する。							
課題	・ 観光客のニーズに沿った観光案内が求められる。 ・ 後継者不足となっている観光ガイドの育成。 ・ 夜間等、観光案内所運営時間外の観光客に対する荷物預かりサービスについて多数要望あり。																	

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		イベント運営事業		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
				担当係	観光特産品係				活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
まちづくりﾌﾟﾗﾝ (基本目標)	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	企画の数	個					
(個別目標)	画面体系	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	負担金補助及び交付金				イ	分野別スタッフ会議の回数	回	4	9	14			
(施策)	体系	1	観光資源の整備、活用	対象	市民・観光客				成果指標 (成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(基本目標)	総合戦略			事業期間	年度～年度 (年間)				ア	観光入込客数	人	800,000 313,342	600,000 453,437	900,000 490,048	900,000	900,000	
(施策)	戦略									イ							
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価								
年間 事業費 ター ル コ ス ト	財源内訳	千円							有効性 評価	所管課による評価							
	国県支出金	千円															
	その他特定財源	千円				19,513											
	一般財源	千円	300	300	13,681	19,513	19,513										
	事業費計 (A)	千円	300	300	13,681	19,513	19,513										
	所要人員 (年間)	人	0.600	0.600	0.600	0.600	0.600										
人件費概算 (B)	千円	3,360	3,360	3,360	3,360	3,360	0										
(A) + (B)	千円	3,660	3,660	17,041	22,873	22,873	0	効率性 評価	景気や新型コロナウイルス感染症拡大の動向など社会的情勢により寄付金の回収が困難な場合もあり、財政的支援も必要である。 また、近年の警備要員人件費の向上もあり、経費削減はおろか、増額の必要性も出てきている。								
(2) 事業概要																	
事業目的	特色あるイベントを通じて観光客を呼び込むとともに、市民が知恵を出し合って協力し合い、主体的に取り組む「市民総参加型」のイベントを実施することにより、地域活性化を推進する。																
事業内容	本市3大まつり（お釈迦まつり、志布志みなとまつり、やっちく松山藩秋の陣まつり）を開催することで、伝統文化の維持や市内外住民の癒し、地域活性化を図る。																
開始経緯	・地域活性化や賑わいづくり、市民の癒しの場の確保等。 ・本市のメインとなるイベントであり、市民も開催を待ち望んでいる。								達成度 評価	重要な観光資源として多くの入込客を誘客できている。上位目標である観光入込客数の増加に寄与する部分は大きい。今後コロナ禍での新しいイベントの形に対応した運営方法の検討も必要である。							
実施状況	令和4年度：お釈迦まつり縮小開催 志布志みなとまつり開催（10月23日） イルミネーション点灯式開催（12月3日）																
成果	令和3年度については、予定していた全てのまつりが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となったが、令和4年度については、規模を縮小しながらもお釈迦まつりは開催した（主催者発表3,000人）。また、志布志みなと祭は、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となったが10月23日に開催することができた（主催者発表40,000人）								改革 改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了		
課題	今後の実施に向けては、新型コロナウイルスの感染症対策やまつりの実施方法を創意工夫し、市民の参画意識、また、参画機会の向上を図る必要がある。 お釈迦まつりでは、引き続きシャンシャン馬の確保が難しい状況となっている。								実行委員会の高齢化や人員不足もあり、担い手となる地元高校生を含む体制見直しを実施する必要がある。体制見直しにより、新たな企画や地域への愛着も生まれ、地域の活性化のツールの一つになる。								

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		スポーツ合宿誘致事業		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移										
				担当係	観光特産品係				活動指標 (実施状況)		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
				予算科目	会計	款	項	目	備考			(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
まちづくりアワード (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	1	7	1	3		ア	誘致訪問件数	件	2 0	2 0	3 3	4			
(個別目標)	4	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	負担金補助及び交付金					イ									
(施策)	2	2	PR・誘客活動の推進	対象	スポーツ団体等						成果指標 (成果・効果)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
(基本目標)	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	事業期間	年度～年度 (年間)					ア	スポーツ合宿実施団体数	団体	220 44	220 103	220 81	220	220		
(施策)	5	5	観光パワーアッププロジェクト							イ	スポーツ合宿受入数	人	4,105	7,699	8,999				
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価										
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価										
年間トータルコスト	事業費	国県支出金	千円						有効性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性 補助金交付を行うことで、本市を合宿選択先に選定していただいている。また、この事業において宿泊業者をはじめ、様々な業者への経済波及効果は高いものであるため、廃止した際の本市への影響は大きい。									
		財源内訳	千円		3,422	7,093	7,600												
		一般財源	千円	908			7,600												
		事業費計 (A)	千円	908	3,422	7,093	7,600	7,600											0
		人件費	人	0.200	0.200	0.200	0.200	0.200											0
		人件費概算 (B)	千円	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120											0
		(A) + (B)	千円	2,028	4,542	8,213	8,720	8,720	0										
(2) 事業概要													効率性評価						
事業目的	行政、民間が一体となった誘致活動や、スポーツ合宿等誘致奨励金を交付することによって、更なる合宿等の誘致を図るとともに、関係機関・団体と連携して歓迎、交流することによって競技スポーツの底辺拡大や観光振興に寄与する。												<ul style="list-style-type: none"> ・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携 誘致に関して、市観光特産品協会、宿泊施設、船舶事業者、旅行会社と連携して誘致を行っている。補助金の交付については、スポーツ団体誘致推進協会が行っているため、行政としては誘致活動を行っている状況であるが、本市に及ぼす費用対効果は十分な結果を得られると考える。						
事業内容	志布志市スポーツ団体誘致推進協会へ補助金を交付し、キャンプ・合宿等を行うスポーツ団体を誘致しスポーツ観光の誘客と振興を図る。																		
開始経緯	平成20年度より、毎年夏に開催されていたサッカーフェスティバルや特に関西地区からの大学サークル等について、年々合宿団体が増加してきた中、旅行AGTや団体からの補助要望があった。																		
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年6月28日 志布志市スポーツ団体誘致推進協会総会開催 ・(夏)サッカーフェスティバル中止 ・(春)フットボールフェスティバル開催 (3月) ・令和3年度、奨励金交付要領を改正し、交通費加算の対象を九州内の団体から全国へと拡充を図った。 ・Jプロツアー (R5年2月開催) 												達成度評価						
成果	3月に実施のSHIBUSHI FOOTBALL FESTIVALについては、宿泊施設の調整がつかず参加校数が13校減少したものの、延べ参加者数は3,409人となり増加がみられた。韓国東国大学野球部の合宿については、令和3年度は新型コロナウイルスの影響により中止されたが本年度は実施された。また、本年度初開催されたIBCF志布志クリテリウムについては、150名の競技参加があるとともに、公式ライ												改革改善案 コロナ禍において、縮小していた大学合宿が再開されつつあるため、本市が相手方にとっていかに魅力的な合宿先となることできるか、助成制度のブラッシュアップはもちろんのこと、施設の問題点等についても関係課と情報共有し改善に向けて協議して行く。 ・受入施設へのコロナ対策を促すとともに、旅行AGTへの合宿誘致を行い、コロナ禍でできる事業の推進を図りたい。 ・Jプロツアーを誘致し、新たなスポーツ合宿誘致に繋げていく。						
課題	コロナ禍において、縮小していた大学合宿が再開されつつあるため、本市が相手方にとっていかに魅力的な合宿先となることできるか、助成制度のブラッシュアップはもちろんのこと、施設の問題点等についても関係課と情報共有し改善に向けて協議して行く必要がある。												拡充 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 改善 <input type="radio"/> 効率化 <input type="radio"/> 廃止終了 <input type="radio"/>						

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		特産品振興事業 (特産品販売所運営事業、特産品販路拡大事業)		担当課		(3) 指標の推移												
				港湾商工課		観光特産品係		活動指標 (実施状況)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度			
				担当係	観光特産品係		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)					
				予算科目	会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)	(実績)				
まちづくりアランチ (基本目標)	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち		予算科目	1	7	1	3		ア	港湾通り販売フェア実施状況	回	5	5	5	5		
(個別目標)	5	食を中心とした特産品の販売が促進されるまち		主な費目	委託金、負担金、補助及び交付金					イ	インターネットショッピングサイト販促活動	回	5	5	5	5		
(施策)	1	特産品PRの推進		対象	市内観光・特産品事業者					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	総合戦略			事業期間	年度～年度 (年間)					ア	港湾通り販売額	千円	10,000	10,000	13,000	13,000	13,000	
(施策)										イ	インターネットショッピングサイト販売額	千円	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価									
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価									
年間トータルコスト	財源内訳	国県支出金	千円						有効性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性 								
		その他特定財源	千円		20,741		26,890											
		一般財源	千円	64,949	1	21,164		26,890										
		事業費計 (A)	千円	64,949	20,742	21,164	26,890	26,890										0
		所要人員 (年間)	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050										
		人件費概算 (B)	千円	280	280	280	280	280										0
	(A) + (B)	千円	65,229	21,022	21,444	27,170	27,170	0	効率性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携 								
(2) 事業概要																		
事業目的	本市特産品の国内外への販路拡大及び消費拡大により特産品事業者の所得向上を図ることを目的とする。																	
事業内容	本市の特産品振興策として、特産品販売所及びオンラインショップの安定的な運営と、特産品全般の販売促進及び商品開発強化に伴う事業等を一般社団法人志布志市観光特産品協会に委託する。																	
開始経緯	観光入込客100万人を目標に本市の観光振興に取り組む中で、リピーターを増やす意味でも観光客を迎え入れた際のおもてなしが重要であること。また、特産品の認知度を向上させることで、地域経済の活性化を図る必要があったため。																	
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品販売所運営事業 アピア内港湾通り運営 オンラインショップ運営 ふるさと納税出品 ・販路拡大事業 国内特産品イベント出展 (夏そばまつり開催、スイーツフェア開催等)、海外輸出研修会実施等 																	
成果	本市の特産品振興策として、特産品販売所及びオンラインショップの安定的な運営を行うため、特産品全般の情報収集及び販売促進、商品開発強化を行いながら本市特産品事業者の所得向上に寄与した。 港湾通り売上額 18,982,104円 (前年実績12,397,444円) インターネットショッピングサイト売上額 3,641,009円 (前年実績1,086,868円)							達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間 									
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナを見据えた特産品販売イベント、オンラインショップにおける販売物の充実など、状況(ニーズ)の変化に応じたスピード感のある対応が必要である。 ・ECサイトシステムであるEC-CUBEの脆弱性について対応する必要がある。 							改革改善案	拡充 ○ 現状維持 改善 効率化 廃止終了 港湾通り、オンラインショップの特性を把握し、適切なPR等の販促事業の徹底を行う。 販路拡大については、特産品部会の民間事業者の意見徴収、マーケティングを徹底し、適切な販路拡大を行う必要がある。 ECサイト運営にあたっての新システムの導入とそれに伴うサイトの再開発を検討。									

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		国民宿舎ボルベリアダグリ改修事業		担当課	港湾商工課					(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度				
				担当係	観光特産品係					活動指標 (実施状況)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	7	款	1	項	1	目	1	備考	ア	施設宿泊者数	4,959	8,799	11,720			
(個別目標)	計画	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	需用費					イ	温泉利用客数	57,082	79,958	85,806							
(施策)	体系	1	観光資源の整備、活用	対象	市民、観光客					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
(基本目標)	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる	事業期間	平成30年度～ 年度 (年間)					ア	観光入込客数	800,000	600,000	900,000	900,000	900,000					
(施策)	戦略	5	観光パワーアッププロジェクト		イ							313,342	453,437	490,048							
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価										
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)													
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・本市が指定管理を委託している当該施設は、本市の観光拠点でもあるダグリ岬に位置し、観光客を受け入れている施設として核となっている。修繕・改修等を行うことにより、運営を維持するほか、利用者のサービスの維持・向上を図る必要がある。										
		その他特定財源	千円																		
		一般財源	千円	81,382	16,887	25,253	20,144	20,000													
		事業費計 (A)	千円	81,382	16,887	25,253	20,144	20,000									0				
		所要人員 (年間)	人	0.500	0.050	0.050	0.050	0.050													
		人件費概算 (B)	千円	2,800	280	280	280	280									0				
		(A) + (B)	千円	84,182	17,167	25,533	20,424	20,280	0												
(2) 事業概要																					
事業目的	経年劣化により業務に供することができなくなった箇所や能力低下の部分を改修することにより、サービスの維持及び向上を図る。																				
事業内容	基本的には長期修繕計画に基づき、指定管理施設である国民宿舎ボルベリアダグリの修繕を行うが、緊急を要する修繕等についても、その修繕の可否を判断した上で、修繕を行う。																				
開始経緯	平成12年にオープンした国民宿舎ボルベリアダグリは、施設整備後20年以上経過し、施設の老朽化から年々修繕箇所も増えてきている。長期修繕計画や指定管理者との協定書を基に、必要な部分については市が修繕を行うこととなっている。																				
実施状況	業務用エレベーター基盤等取替修繕、客室壁クロス・建具等補修、非常用電源取替修繕、高架水槽取替修繕等12件の修繕を行った。																				
成果	・運営上必要な箇所について、適切に修繕を行い、サービスの維持及び向上に努めた。																				
課題	施設整備後20年以上経過していることもあり、施設の経年劣化から、年々修繕箇所も増えてきているとともに、突発的に発生する修繕等も出てきている。																				
		拡充		○ 現状維持		改善		効率化		廃止終了											
		改革改善案 ・大規模修繕にならないよう、日々の定期点検を実施し、早期発見による小規模で済むうちに、修繕を行っていく。 ・光熱費等の維持管理経費が急激に値上がりに対応するため、民間資本も活用した修繕等も検討していく必要がある。 ・日常的な除草作業や清掃業務等を徹底してもらうよう立入検査等で状況を確認する。																			

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		東京駐在所運営事業		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度				
				担当係	観光特産品係				活動指標 (実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりアランチ (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計 1	款 7	項 1	目 3	備考	ア	企業訪問件数	件		50 88	50 187	50	50			
(個別目標)	5		食を中心とした特産品の販売が促進されるまち	主な費目	委託料					イ		件								
(施策)	2		市内外の販路拡大と増進	対象	一般社団法人志布志市観光特産品協会															
(基本目標)	総合戦略			事業期間	令和 3 年度～ 年度 (年間)					ア	取引斡旋事業者数	人		30 30	30 18	40	40			
(施策)										イ	東京駐在所実施イベント	人		30 3	30 9	30	30			
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価	所管課による評価										
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	ふるさと納税の寄附者とのつながりという大きな目的を失い、特産品販路拡大を軸とした方針に変更している。 都内企業とのマッチング及び特産品イベントについては、コロナ禍によりオンライン等での実施が可能な部分もあるが、直接会って話すことで、より一層魅力を伝えられる面もある。									
	財源内訳	その他特定財源	千円		12,024	15,680	15,964													
		一般財源	千円		1		15,694													
		事業費計 (A)	千円	0	12,025	15,680	15,964	15,694										0		
	人件費	所要人員 (年間)	人		0.050	0.050	0.050	0.050												
		人件費概算 (B)	千円	0	280	280	280	280										0		
	(A) + (B)	千円	0	12,305	15,960	16,244	15,974	0												
(2) 事業概要										効率性 評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	職員を現地雇用したで、家賃等の経費削減につながった。現在の状況では、費用対効果を考えると非常に厳しいが、新たな販路開拓や移住定住への取組等、販路拡大とは別の取組を行うことで、東京駐在所の利用価値は高まる。財政負担は大きいが目に見えない企業とのつながり等が構築されている。								
事業目的	特産品振興、移住定住促進を視野に入れた経済活性化の取組強化及び首都圏のふるさと納税寄附者との関係強化を目的に平成30年5月に開設した。																			
事業内容	県東京事務所との連携、イベント当日運営、特産品イベント運営、販路拡大のため都内事業者と観光特産品協会会員とのマッチングを行っている。運営を一般社団法人志布志市観光特産品協会に委託している。																			
開始経緯	平成25年度地方税法改正により、ふるさと納税制度返礼品の過熱化・競争化が問題視されるようになった。令和元年度地方税法改正により示された募集適正基準により、ふるさと納税経費から東京駐在所経費は除外したが、東京という大きなマーケットに進出できる機会を確保する上で、重要な拠点となっている。																			
実施状況	都内百貨店僱事(松屋銀座・池袋東武)、飲食店及びびかごしま遊楽館単独イベント、移住フェアサポート、市内事業者と都内飲食店等とのマッチング等を実施した。								達成度 評価	・ 数値目標 ・ 目指す状況 ・ 実現性 ・ 情勢、環境の変化 ・ 事業期間	コロナ禍において、活動・行動が制限されていたが、現在は、東京駐在所でしかできない販路拡大や関係人口創出のため、訪問活動等も再開している。これまで築いてきた販路を維持しつつ、新規事業者とのマッチングを行い、新たな販路拡大につなげていく。									
成果	新型コロナウイルス感染症拡大により首都圏でのイベント開催が難しい状況であったが、昨今の経済活動の活性化により、都内飲食店利用者や僱事等への参加者が増加傾向にある。コロナ禍においてオンライン等での商談や企業とのコミュニケーションを多く設定してきたことによる成果もあり、市の特産品認知度向上や販路開拓・拡大活動の実績が出てきている。																			
課題	現在、特産品の販路拡大が東京駐在所の主な事業になっている。東京に駐在所を有する利点を最大限に活かした取組を見出し、様々な観点から活用していく必要がある。								改革 改善案	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 効率化 <input type="checkbox"/> 廃止終了		現地採用職員のスキルを活用した新たな販路拡大 東京駐在所の利点を活かした新たな取組								

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		担当課 港湾商工課					(3) 指標の推移								
							活動指標 (実施状況)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
ダグリ岬公園周辺整備事業		担当係	観光特産品係			単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)			
		予算科目	会計	款	項	目	備考	(実績)	(実績)	(実績)					
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち					ア							
(個別目標)		4	地域資源を生かした観光のまち					イ							
(施策)		1	観光資源の整備、活用					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる					ア							
(施策)		5	観光パワーアッププロジェクト					イ							
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価						
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価						
年間トータルコスト	事業費	国県支出金	千円						有効性評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性 					
		その他特定財源	千円		18,830	4,449									
		一般財源	千円	10,178			0	0							
		事業費計 (A)	千円	10,178	0	18,830	4,449	0						0	
		人件費	所要人員 (年間)	人		0.200									
		人件費概算 (B)	千円	0	0	1,120	0	0						0	
	(A) + (B)	千円	10,178	0	19,950	4,449	0	0							
(2) 事業概要															
事業目的	第2次志布志市観光振興計画においても重要コンテンツとなっている「ダグリ岬」公園周辺を整備し、観光の拠点として活用する。														
事業内容	ダグリ岬周辺の民間による観光施設設備の可能性調査委託及び土地購入、海水浴場トイレの解体による景観整備を図る。														
開始経緯	ダグリ岬公園周辺整備基本計画において、整備区域である土地の購入を進めること。また、購入した土地においてPFI方式での民間企業による施設整備の可能性の検討調査を行うことは、本市における観光拠点の整備として重要性が高い。また、海水浴場におけるトイレの景観の悪さから本市のイメージダウンに繋がることから、解体による景観整備を図ることは必須である。														
実施状況	H30年度 旧夏井壮解体工事 R2年度 ダグリ岬海水浴場景観整備伐採業務 ダグリ岬海水浴場転落防止柵等設置工事 R4年度 ダグリ岬周辺整備用地取得・測量設計実施														
成果	ダグリ岬海水浴場は、観光資源としての価値も高く、用地取得を進めることで、将来的な本市の観光拠点施設となるための環境を整えることができた。														
課題	ダグリ岬公園において、各施設が単独で営業しており、連携しての誘客にまでは繋がっていない。 新たな施設整備の可能性において、施設間の連携についても模索していく必要がある。 本市観光の重要コンテンツとなるダグリ岬一帯の活性化に対する民間企業からの提案について、観光誘客の目玉になるよう見極めていく必要がある。														
		○ 拡充		現状維持		改善		効率化		廃止終了					
		民間の活力を導入した整備により、安価で経営まで見越した施設整備を進める必要がある。 施設の改修及び新たな施設の導入については、ユニバーサルデザインを考慮した施設整備に努める。													

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		観光特産品協会運営事業		担当課	港湾商工課					(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	
				担当係	観光特産品係					活動指標 (実施状況)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
まちづくりアソシエーション (基本目標)	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	1	7	1	3	備考	ア	会員事業者数	件	170 165	170 163	170 164	180	180
(個別目標)	画面体系	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	負担金、補助及び交付金					イ	受託事業及び補助事業数	事業			10 8	10 9	10	10
(施策)	体系	2	PR・誘客活動の推進	対象	一般社団法人志布志市観光特産品協会						成果指標 (成果・効果)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(基本目標)	総合戦略			事業期間	年度～年度 (年間)					ア	会員増減数	件	10 5	10 -2	10 1	10	10	
(施策)											イ							
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価									
年間 トータル コスト	事業費	国県支出金	千円						有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	所管課による評価							
	財源内訳	その他特定財源	千円		36,555	38,273	38,273											
	一般財源	千円	34,787	1	36,972													
	事業費計 (A)	千円	34,787	36,556	36,972	38,273	38,273	0										
	人件費	所要人員 (年間)	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050										
	人件費概算 (B)	千円	280	280	280	280	280	0										
(A) + (B)	千円	35,067	36,836	37,252	38,553	38,553	0											
(2) 事業概要										効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	・市と両輪となり、観光特産品振興に寄与する機関であるため、今後も支援は必要であるが、効果的な事業展開と自主事業の実施により、収益を増やすことも可能と考える。 ・他に類似する事業者はなく、公平な立場で事業には取り組んでいる。						
事業目的	市と両輪となり、本市の観光・特産品の振興を担う一般社団法人志布志市観光特産品協会における人件費、組織運営・強化等に要する費用を運営事業として助成する。																	
事業内容	一般社団法人志布志市観光特産品協会職員等の人件費や、イベント・物産展等に参加するための旅費、アドバイザー及び専門家の活用等に要する費用に対し補助金を交付する。																	
開始経緯	令和2年度まで各事業ごとに職員等の人件費を計上していたが、委託又は補助金交付事業について、事業ごとのスクラップ&ビルドを行う必要があることから、令和3年度より人件費等の経費を運営事業として補助することとなった。																	
実施状況	お祭り実行委員会事務局、スポーツ団体誘致推進協会事務局、観光総合案内所運営、観光客誘客及び情報発信、アピア内港湾通り運営、特産品販売インターネットショッピングサイト運営、各種イベント実施運営、特産品販路拡大事業 東京駐在所運営事業 等。								達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	・アフターコロナに対応したイベント等を実施する必要がある。 ・市の政策実現及び会員の利益のために実施する事業の精査を行い、民間出身者の活用も視野に入れた運営を検討する。							
成果	令和4年度市からの委託事業、補助事業及び観光特産品協会における自主事業等を行うことで、本市の観光振興に大きく寄与した。 【委託】観光客誘致推進事業、総合観光案内所運営事業、特産品販売所運営事業、東京駐在所運営事業 【補助】魅力ある観光地づくり事業、お祭り実行委員会運営補助、特産品振興販路拡大事業、スポーツ団体誘致推進協会運営事業補助金、 観光特産品協会運営事業																	
課題	数多くの委託事業等を受託しているため、人的業務量がかなりひっ迫している状況にあるので、人員の確保だけでなく、協会職員が安心して働くことができる環境づくりに課題がある。								改革 改善案	自主事業を増やし、協会自体の収益力の向上を図ることで、事業費削減につながる。 イベント広場の指定管理を観光特産品協会にお願いすることで、JR志布志駅前の賑わいに対し、自主事業等で収益を上げながら貢献していただける環境づくりが必要である。								

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		サイクルツーリスト誘客促進事業		担当課	港湾商工課					(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度									
				担当係	観光特産品係					活動指標 (実施状況)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)									
				予算科目	会計	款	項	目	備考	サイクリングに関する情報発信数	回	(実績)	(実績)	(実績)												
まちづくりﾌﾟﾗﾝ (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	1	7	1	3		ア				10												
(個別目標)	計画体系	5	食を中心とした特産品の販売が促進されるまち	主な費目	委託料					イ																
(施策)	体系	2	市内外の販路拡大と増進	対象	市民、観光客					成果指標 (成果・効果)	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)									
(基本目標)	総合戦略			事業期間	年度～年度 (年間)					ア	サイクリイベント参加者数	人			200											
(施策)	戦略									イ	レンタサイクル利用者数	人			10											
														304												
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価																	
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価																	
年間トータルコスト	事業費	千円							有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	サイクリング需要の高まりを受け、サイクルツーリストも増加傾向にある。サイクルツーリストをターゲットにした事業を継続的に行うことが本市への経済波及効果増に繋がることとなる。 また、フェリーさんふらわあやJR志布志駅等の交通機関活用策にも繋がる。															
	財源内訳	千円																								
	国県支出金	千円																								
	その他特定財源	千円																								
	一般財源	千円			2,000																					
	事業費計 (A)	千円	0	0	2,000	0	0																			
人件費	千円	0	0	140	0	0	効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	サイクリイベントやモニターツアーを実施することで、サイクルツーリストに走りやすい本市の状況が伝わることで、宿泊や飲食店利用、サイクルツーリストによる更なる情報発信等が期待できることから、本市に及ぼす経済効果は十分期待することができる。																	
所要人員 (年間)	人			0.025																						
人件費概算 (B)	千円	0	0	140	0	0																				
(A) + (B)	千円	0	0	2,140	0	0																				
(2) 事業概要																達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	サイクルツーリストの受入に対応すべく、市内宿泊施設や観光施設等にサイクルスタンドや空気入れの設置等、受入体制整備が進むことが期待できる。また、令和5年2月に本市にて開催予定のJプロツアー（自転車のプロツアー）に向け、機運が高まることも期待される。								
事業目的	コロナ禍においてマイクロツーリズムやサイクルツーリズムへのニーズが高まる中、自然豊かな本市の魅力を活かしたサイクリストの誘致を行うため、イベントやモニターツアーを行う。																									
事業内容	コロナ禍において人気の高まりつつあるサイクリングに関連したイベントを実施することで、誘客促進や鹿児島県内初開催となるJプロツアーの市内開催に向けた機運醸成等を図るため、ポタリングイベントやモニターツアーを実施する。																									
開始経緯	コロナ禍において、観光客やスポーツ合宿で本市を訪れる入込客が激減している。そのような中、密を避ける移動手段やアウトドアメニューとして、サイクルツーリズムの人気の高まりつつあるため、自然豊かな魅力ある本市をPRすることで、サイクルツーリストの誘客を図る必要があるため。																									
実施状況	モニターツアー 11月実施 (参加者12人) スタンプラリー：11～12月実施 (参加者173人)																									
成果	モニターツアーに12人、ポタリングスタンプラリーに173人の参加があり、各イベントについてサイクリストから本市のサイクルツーリズムの取組等についての感想や改善要望の聴取を行い、関係機関と共有することができた。																									
課題	事業実施の結果により得られた参加者の意見を実際の旅行商品に盛り込み、魅力的な商品とできるようにしていく。 特に、宿泊や土産物に関する要望が多かったことから関係事業者に得られた意見をつないでいく。							改革改善案	拡充	現状維持	改善	効率化	○	廃止終了												

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		物価高騰しづし版支援給付金事業(宿泊施設等)		担当課	港湾商工課					(3)指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度				
				担当係	観光特産品係					活動指標(実施状況)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりﾌﾟﾗﾝ (基本目標)	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	交付実績	件									
(個別目標)	計画体系	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	負担金、補助及び交付金								イ								
(施策)	体系	2	PR・誘客活動の推進	対象	宿泊施設等					成果指標(成果・効果)		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
(基本目標)	総合戦略									事業期間	年度～ 年度(年間)					ア	宿泊施設等数	施設			16
(施策)	戦略										イ				16						
(1)総事業費の推移		単位	2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度		(4)評価		所管課による評価				
年間 トータル コスト	財源内訳	国県支出金	千円				15,100								有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・市や議会に対し、商工業者等から支援を求める要望書も上がってきている。 ・宿泊施設以外を対象とした事業とも連携し、幅広く支援を行っている。				
		その他特定財源	千円																		
		一般財源	千円																		
		事業費計(A)	千円	0	0	15,100	0	0	0												
		所要人員(年間)	人			0.050															
		人件費概算(B)	千円	0	0	280	0	0	0												
	(A)+(B)	千円	0	0	15,380	0	0	0													
(2)事業概要																					
事業目的	物価高騰の影響により事業継続に支障をきたしている宿泊業者等に対し給付金事業を行うことで事業存続の支援を図る。																				
事業内容	令和4年10月以前から引き続き、主たる事業として宿泊施設又は、公衆浴場を経営しているもの等に対して給付金を支給。 【給付額】 令和元年7月又は8月、若しくは令和2年7月又は8月の売上実績等に応じ給付。 ア 収容人数が40人未満で売上50万円未満は一律10万円																				
開始経緯	物価高騰により特に事業の存続に大きく影響を受けている市内の宿泊施設に対し、給付金を給付することで、事業存続を図る必要がある。																				
実施状況	【交付実績】合計 13件 15,100,000円 ア 1件 100,000円 イ 3件 600,000円 ウ 3件 1,500,000円 エ 2件 3,000,000円 オ 3件 9,600,000円 カ 1件 300,000円 ※カのうち2件はオと併給																				
成果	市内16施設のうち、経営の落ち込んだ10施設に給付金を給付したことで、事業存続の一助となり、現在も営業を継続している。																				
課題	今後もコロナの状況や物価・燃料費の高騰等を注視し、必要に応じ、事業存続に向けた市の施策を実施する必要がある。																				
										改革改善案		拡充		現状維持		改善		効率化		○ 廃止終了	
										・状況の変化に応じ、事象にあった支援の在り方が必要となる。											

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		大隅広域観光開発推進会議		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
				担当係	観光特産品係				活動指標 (実施状況)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
まちづくりアプラン (基本目標)	振興計画	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	事業実施数	回	8	8	8	8
(個別目標)	画面体系	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	その他団体負担金				イ	スタッフ会議の回数	回		15	15		
(施策)	2	PR・誘客活動の推進		対象	観光客					成果指標 (成果・効果)	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)
(基本目標)	総合戦略			事業期間	年度～年度 (年間)				ア	観光入込客数	人	800,000 313,342	600,000 453,437	900,000 488,437	900,000	900,000
(施策)										イ						
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価		所管課による評価					
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)								
年間トータルコスト	事業費	国県支出金	千円						有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・キャンプやサイクリングなど、密を避ける旅行のニーズが高まっている。 ・観光地が点在する大隅地域において、単自治体での取り組みではなく、近隣自治体と連携した誘客を図るため、広域的な視点に立った事業を創出すべきである。 ・行政で組織する当会議と民間で組織するおおすみ観光未来会議やOhすみっこクラブ等との連携も図られている。					
	財源内訳	その他特定財源	千円													
		一般財源	千円	3,794	3,715	3,578	3,573									
		事業費計 (A)	千円	3,794	3,715	3,578	3,573	0								0
	人件費	所要人員 (年間)	人													
		人件費概算 (B)	千円	0	0	0	0	0								0
	(A) + (B)	千円	3,794	3,715	3,578	3,573	0	0								
(2) 事業概要																
事業目的	大隅広域観光開発推進会議は、大隅地域のけん引役として大隅地域のブランド化を図り、戦略に基づく一貫したプロモーションを展開し地域資源を活用した地域の「稼ぐ力」を創出し、将来的には集客・消費拡大による地域産業の振興、雇用創出、定住促進を目指しながら大隅らしい観光地域づくりに取り組む。															
事業内容	①副首長、課長会、担当者会の開催 ②大隅広域観光推進業務 ③薩摩半島、大隅半島を繋ぐ周遊観光促進事業 ④大隅半島団体旅行誘致促進事業 ⑤大隅半島サイクリング観光促進事業 ⑥大隅半島観光情報発信事業 ⑦ドライブ観光促進事業 ⑧大隅PR推進事業 ⑨観光かごしま大キャンペーン推進協議会への参画															
開始経緯	本市は、さんふらわあやJR志布志駅を活用した大隅半島への玄関口であるが、大隅半島の魅力ある観光スポットは大隅半島全域に点在していることから、本市単独の観光振興策だけでなく広域的な観光振興の視点を持って本市の観光入込客増対策や観光特産品振興を推進することが必要である。															
実施状況	①副首長会 (1回)、課長会 (2回)、担当者会 (7回) ②ドライブスタンプラリーの開催 (指宿市との連携) イベント期間 8月～10月 ③大隅半島団体旅行誘致促進事業 申請 33件 交付 24件 ④グルメガイドブック作成															
成果	関係市町の観光特産品素材の活用状況やPR手法を課長会や担当者会を通じて共有することで、大隅広域観光開発推進会議の強みを生かした観光誘客が可能となっている。															
課題	本市への観光誘客については成果がでていないものの、目標とする大隅地域4市5町全域への送客や誘客までは至っていない現状がある。これが実現した場合、本市にはより一層の誘客が見込まれるため、官民一体となった更なる観光地域づくりが必要である。															
	改革改善案	拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了	・SNS等を活用した効果的な情報発信を充実させる必要がある。								

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		担当課 港湾商工課					(3) 指標の推移									
							活動指標 (実施状況)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
ダグリ岬海水浴場周辺海岸漂着物処理委託事業		担当係	観光特産品係					単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)		
		予算科目	会計	款	項	目	備考		(実績)	(実績)	(実績)					
まちづくりプラン (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	1	7	1	3		ア	回収作業	回		26	26		
(個別目標)	4	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目 委託料					イ							
(施策)	1	1	観光資源の整備、活用	対象 市民、観光客					成果指標 (成果・効果)		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)	総合戦略						事業期間		年度～年度 (年間)	ア						
(施策)									イ							
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価							
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価							
年間トータルコスト	財源内訳	千円		1,388	1,552	1,388	1,762		有効性評価	・ 市民のニーズ ・ 事業の効果 ・ 政策との整合性 ・ 事業を廃止の影響 ・ 類似事業との連携 ・ 公平性	ダグリ公園周辺は市の観光振興計画でも重点エリアとして位置付けており、特に海水浴場及び遊園地は、総合的な観光レクリエーション施設として、今後も集中的に整備活用し、観光振興及び地域活性化を図る。					
	国県支出金	千円		1,388	1,552	1,388	1,762									
	その他特定財源	千円		348	538											
	一般財源	千円				374										
	事業費計 (A)	千円	0	1,736	2,090	1,762	1,762	0								
	所要人員 (年間)	人		0.025	0.025	0.025	0.025									
人件費概算 (B)	千円	0	140	140	140	140	0	効率性評価	・ 事業効果向上 ・ 事業費削減 ・ 事務の効率化 ・ 費用対効果 ・ 財政負担の必要性 ・ 関係者との連携	海水浴場は、毎年の台風、大雨により漂着する海洋ごみが滞留し、海岸が荒らされていくため、海洋ごみの回収・処分を行う必要である。						
(A) + (B)	千円	0	1,876	2,230	1,902	1,902	0									
(2) 事業概要																
事業目的	ダグリ岬海水浴場周辺に漂着する海洋ごみ等の回収・処分を委託することにより年間を通じた景観維持を図り、市内外から訪れる利用者に気持ち良く利用してもらい、観光拠点としての魅力向上及び地域経済活性化を図る。															
事業内容	ダグリ岬海水浴場周辺に漂着する海洋ごみ等の回収・処分を委託する。															
開始経緯	国定公園の範囲内に属するダグリ岬公園のうち海水浴場周辺は、市の観光振興計画でも重点エリアとして重要な観光拠点となっている。															
実施状況	通年管理分 春季(4月～6月) 0回/月 夏季(7月～9月) 0回/月 秋・冬季(12月～1月) 13回/月 台風災害による漂着物処理作業を実施															
成果	環境保護を目的とする市内団体等が、ダグリ岬海水浴場周辺のボランティア清掃活動を行っていただいたことにより、費用をかけず景観を維持することができた。															
課題																
		改革改善案		拡充	○	現状維持	改善	効率化	廃止終了							

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		経営持続化しぶし版応援給付金（宿泊施設分）				担当課		(3) 指標の推移																
						港湾商工課		観光特産品係		活動指標（実施状況）		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度							
						担当係	会計		款	項	目	備考	単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)					
						予算科目	1	7	1	3				(実績)	(実績)	(実績)								
まちづくりﾌﾟﾗﾝ (基本目標)	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち				予算科目						ア	交付実績	件			15						
(個別目標)	4	地域資源を生かした観光のまち				主な費目	負担金、補助及び交付金					イ												
(施策)	2	PR・誘客活動の推進				対象	宿泊施設					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)				
(基本目標)	総合戦略					事業期間	年度～年度（ 年間）					ア	宿泊施設数	施設			15							
(施策)												イ				15								
(1) 総事業費の推移		単位	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	(4) 評価															
			(実績・決算)	(実績・決算)	(実績・決算)	(計画・予算)	(計画・予算)	(計画・予算)	所管課による評価															
年間トータルコスト	財源内訳	千円			15,000				有効性評価 ・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・市や議会に対し、商工業者等から支援を求める要望書も上がってきている。 ・宿泊施設以外を対象とした事業とも連携し、幅広く支援を行っている。														
	国県支出金	千円																						
	その他特定財源	千円																						
	一般財源	千円																						
	事業費計 (A)	千円	0	0	15,000	0	0	0																
	所要人員 (年間)	人			0.050																			
人件費概算 (B)	千円	0	0	280	0	0	0	効率性評価 ・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	・コロナの終息の兆しが見えてきたが、依然として外出控えが止まらないため、市内宿泊施設へ支援を行い経営を存続してもらうための財政負担は必須である。															
(A) + (B)	千円	0	0	15,280	0	0	0																	
(2) 事業概要													達成度評価 ・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢・環境の変化 ・事業期間	・コロナに加え、物価や燃料費高騰も見込まれる中、1店舗でも多くの事業者に経営を維持していただき、地域活性化を図る。										
事業目的	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、経営が悪化し事業継続に支障をきたしている中、影響を大きく受けた宿泊事業者に、給付金を交付することで事業存続の支援を図る。																							
事業内容	令和3年7月又は8月の任意1カ月の売上上、令和元年又は2年の同月と比べて10%以上減少している宿泊事業者に給付金を支給。 令和4年1月から3月までの任意の1カ月の売上上、平成31年又は令和3年の同月と比べて10%以上減少している等の交付条件を満たす宿泊事業者に対して給付金を支給。 【給付額】 ア 収容人数が40人未満で売上30万円未満は一律10万円 イ 収容人数が40人未満で売上30～50万円未満は一律20万円 ウ 収容人数が40人未満で売上50万円以上は一律30万円 エ 収容人数が40人以上で売上500万円未満は一律140万円 オ 収容人数が40人以上で売上500万円以上1,000万円未満は一律330万円																							
開始経緯	コロナ禍により特に事業の存続に大きく影響を受けている市内の宿泊施設に対し、給付金を給付することで、事業存続を図る必要がある。											改革改善案 ・状況の変化に応じ、事象にあった支援の在り方が必要となる。	○ 廃止終了											
実施状況	【交付実績】合計 10件 15,000,000円 ア 1件 100,000円 イ 1件 200,000円 ウ 4件 1,200,000円 エ 1件 1,400,000円 オ 1件 3,300,000円 カ 2件 8,800,000円																							
成果	市内15施設のうち、経営の落ち込んだ10施設に給付金を給付したことで、事業存続の一助となり、現在も営業を継続している。											拡充	現状維持	改善	効率化	○	廃止終了							
課題	今後もコロナの状況や物価・燃料費の高騰等を注視し、必要に応じ、事業存続に向けた市の施策を実施する必要がある。																							

令和 5 年度 事務事業マネジメントシート

作成日 令和 5 年 7 月 1 日作成

事務事業名		蓬の郷（ふれあい交流センター）指定管理委託事業		担当課	港湾商工課				(3) 指標の推移		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度		
				担当係	観光特産品係				活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	
まちづくりプラン （基本目標）	振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち	予算科目	会計 1	款 7	項 1	目 3	備考	ア	年間利用者数	人		200,000 153,456	200,000 148,651	200,000	20,000	
（個別目標）	4	地域資源を生かした観光のまち	主な費目	委託料				イ										
（施策）	1	観光資源の整備、活用	対象	市民、観光客				成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
（基本目標）	総合戦略		事業期間	年度～ 年度（ 年間）				ア	観光入込客数	人	800,000 313,342	600,000 453,437	900,000 490,048	900,000	900,000			
（施策）																		
(1) 総事業費の推移		単位	2年度 (実績・決算)	3年度 (実績・決算)	4年度 (実績・決算)	5年度 (計画・予算)	6年度 (計画・予算)	7年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価							
年間 事業費 タ ル コ ス ト	財源内訳	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・子供たちの自然観察学習の場、市民や観光客の癒しの場として親しまれており、観光振興からも重要な施設となっている。 ・事業を廃止することで、市民のふれあいの場がなくなり、地域活性化が図られなくなる。							
	国県支出金	千円																
	その他特定財源	千円																
	一般財源	千円	0	7,757	12,244	0	0											
	事業費計 (A)	千円	0	7,757	12,244	0	0											
	所要人員 (年間)	人			0.025													
人件費概算 (B)	千円	0	0	140	0	0												
(A) + (B)	千円	0	7,757	12,384	0	0	0	効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	・市内外のお客様の憩いの場として安定的に運営していること、お風呂だけでなく地元特産品の提供販売を実施するなど、本市になくてはならない有明地域の拠点施設として運営されているのでこれ以上の事業費削減は難しい。								
(2) 事業概要																		
事業目的	市民のふれあい交流の促進、地域間交流の促進、健康ライフの増進、青少年の自然観察学習の促進及び地域の活性化を図る。																	
事業内容	蓬の郷（ふれあい交流センター）を中心としたお風呂や地元特産品を味わうことができるレストランと宴会場の運営、地元特産品を販売する魅力的な売り場づくりを通じて、市内外からの利用客が集う施設として営業を行う。																	
開始経緯	平成25年度から親水公園周辺施設とふれあい交流センターの管理者を分け、より専門性の高い指定管理者に管理運営を委託することで、効果的かつ効率的な施設運営が図られ、施設の設置目的である地域活性化の観点からも市民が自然と触れ合える施設とする必要があったため。								達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	・親水公園や民宿村を含めた周辺施設との連携を今以上に図り、新たな自主企画などを通じ、蓬の郷周辺が一体となり、コロナ禍により外出意欲の低下した市内外住民の集客を図る必要がある。							
実施状況	年間施設利用者 148,651人（平成30年度対比 221,044人 67.2%） (1)風呂利用者：117,037人（平成30年度対比 151,630人 77.2%） (2)レストラン利用者：21,723人（平成30年度対比 47,621人 45.6%） (3)宴会利用者：9,891人（平成30年度対比 21,793人 45.3%）																	
成果	コロナ禍において減少した利用客を呼び戻すため、イベント企画を計画するなど対策を講じる予定であったが新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止を余儀なくされた。しかしながら、夏そばや鰻など、地域特産品を活用したメニュー開発や地道なPR活動に取り組んだが、コロナ前と比較するとまだまだ厳しい状況にある。								改革 改善案	拡充		現状維持	○ 改善	効率化	廃止終了			
課題	コロナに加え、物価・燃料費の高騰も懸念され、事業存続に向け、指定管理料等による市の支援も必要になるのではないかと予測される。									・健全で安定した経営を維持するために、近隣同施設の状況を把握しながら、入浴料等の料金設定を協議していく必要がある。								